ラジオで発信ー若者と高齢者の音楽イベント制作

春・秋連結学期 | 今出川校地開講科目

1. 目的・概要

the purpose and an outline

私たちは、高齢者福祉施設で音楽イベントを開催し、高齢者に音楽を楽しんでもらうことを通じて、心身の健康の維持・向上をはかることを目的に活動してきました。そして、音楽の面から健康や病気について検討し、医学では得られないような効果を得ることを目指してきました。また、私たちの行った活動内容について、ラジオを通じて発信することで、私たちの取り組みや学んだことをより多くの方々に伝えていくことも目的としています。

本プロジェクトでは、履修生が高齢者福祉施設や病院などを訪問し、音楽イベントを企画・実施しています。その際、楽しいコンサート作りだけを目的とせず、高齢者や入院患者を観察し、音楽が生理的・社会的・心理的にどのような影響を与えるかを分析して、医学ではできない音楽分野から認知症や健康について考えています。そして、音楽活動の方法やコンサートの活動内容をラジオを使って発信し、「高齢者に寄り添う」ラジオ制作を行っています。

annual schedule

2015年	4月	23日	ラジオ大阪「今夜はしゃべらナイト」出演
	5月	17日	KBS京都「武部宏の日曜と一く」出演　病院から音楽イベント中継
		21日	ゲストスピーカー　赤坂マリアさん
	6月	21日	ゲストスピーカー　稲田雅美さん（同志社女子大学教授・音楽療法士）
		25日	京都市A施設訪問（音楽イベント）
	7月	5日	洛和会訪問
		27日	ラジオ大阪「今夜はしゃべらナイト」出演
	10月	16日	ラジオ大阪「今夜はしゃべらナイト」出演、神の園訪問
	11月	2日	京都市A施設訪問（コンサート）
		6日	城陽市B施設訪問（コンサート）
		26日	京都市A施設訪問（桃太郎演劇）
	12月	3日	亀岡市C施設訪問（桃太郎演劇）
		8日	ラジオカフェ出演
		10日	京都市A施設訪問（桃太郎演劇）
2016年		22日	ラジオカフェ出演
		24日	京都市A施設訪問（クリスマスコンサート）
	1月	5日	ラジオカフェ出演
		7日	ラジオ大阪「今夜はしゃべらナイト」出演
		10日	KBS京都「武部宏の日曜と一く」出演

2. 成果達成度

the achievement degree

私たちは、若者と高齢者が一体となって楽しめる音楽イベントを開催してきました。春学期には、まず、自ら高齢者施設の経営をされているラジオパーソナリティーの赤坂マリアさんと、同志社女子大学教授の稲田雅美先生をゲストスピーカーにお呼びし、音楽療法や認知症についての知識を深めることができました。この講演をきっかけに、自分たちで音楽イベントを制作し、音楽療法によって医学では得られないような効果を得ることを目指していくことになりました。春学期に一度、介護施設を訪問して、オリジナルの音楽イベントを企画・開催しました。イベントでは、ただ学生が歌を歌うだけではなく、高齢者の方々に即興で歌の歌詞を考えていただいたり、私たちが作成したオリジナル楽器を配布して一緒にたたいてもらったりするなど、高齢者の方々が積極的に参加できるような工夫をしました。

秋学期には、春学期に引き続き赤坂マリアさんにアドバイスをいただき、桃太郎の音楽劇を中心としたイベントを制作しました。ただ桃太郎の演劇を行うだけではなく、演劇の途中で、季節の歌やリズムゲームを入れて、高齢者の方々が参加できるイベント作りを目指しました。また、ヨーグルトの容器にビーズを入れたマラカスなど身近なものを使って手作り楽器を製作したり、オリジナルの歌詞カードを作成し、イベント終了後も使用していただくために施設の高齢者の方々にプレゼントしました。これらの工夫を取り込んだ音楽劇を限られた時間の中で協力して準備を行い、全三回にわたって介護施設でイベントを行いました。その際、高齢者の方々の様子を九つの項目に基づいて評価し、音楽イベント前後での高齢者の方々の様子の変化を調査しました。音楽イベントによって、高齢者の方々の笑顔が増えただけではなく、ベッドに寝ていた方が音楽に反応してイベントに立ち上がって参加してくださるなど目に見える形で高齢者の方々の変化を見ることができました。イベント終了後には、高齢者の方から感謝の言葉をかけていただくこともあり、高齢者の方々に喜んでいただけるイベントを行えたと思います。

また、私たちはただ音楽イベントを開催するだけではなく、活動の様子についてラジオ番組を通じて発信する活動も行ってきました。KBS京都のラジオ番組では、病院で音楽イベントを行い、その様子をラジオで生中継しました。また、秋学期には、私たちの活動内容とその意義について多くの方々に理解してもらい、若者と高齢者の積極的な交流をはかることを目的として自分たちでラジオ番組を製作しました。ラジオ番組では、全盲のリスナーの方や視覚障害のリスナーの方がラジオを聞いて喜んでくださったという声も聴くことができ、自分たちの活動をどこまで広げることができたかはわかりませんが、自分たちの活動をラジオで知ってくださる方がいるということは、ラジオ放送を行う意味があったと思います。

3. プロジェクトを通じて

through a project

この1年間の活動の中で、高齢者の方々とのふれあいやラジオ出演といった、座学では学ぶことのできない様々な経験をすることができました。しかし、活動が最初からすべてうまく進んだわけではありませんでした。まず、施設交渉やラジオ交渉では、施設やラジオ局との交渉がなかなかうまく進まずに苦労しました。そこから、イベントを皆で協力して作っていく中で、高齢者に積極的に参加していただけるイベントにするにはどうしたらよいかが分からず、企画の段階からなかなか前へ進みませんでした。しかし、ゲストスピーカーの方々の意見も参考にしながら、皆で高齢者の方々に喜んでいただけるような工夫を考えだした結果、オリジナルのイベントを制作し、成功させることができました。

また、音楽イベント製作を通じて、達成感を味わうことができました。イベントでは、施設の高齢者の方々との触れ合いを大切にするよう意識し、自分たちから積極的に高齢者の方々に声をかけてコミュニケーションをとるように心がけました。高齢者の方々も、私たちと一緒にイベントを楽しんでくださり逆に高齢者の方々から昔流行した曲を教えてもらったりすることもありました。イベントを通じて高齢者の方々に笑顔が増えていく様子を見て、私たちも楽しんでイベントを行うことができ、大きな達成感を味わうことができました。

音楽イベントを通じて感じたことは、高齢者の方々が違う世代の人々との触れ合いを求めているということです。これからの高齢社会において、若者と高齢者の交流の場を増やしていくことは、とても重要な事だと感じました。

プロジェクト科目全体を通じては、自主的に行動しなければ何も始まらないため、自主的に行動することの大切さを学びました。また、イベントを成功させるために一人ひとりが自分の役割を果たし皆で協力することの重要性を強く感じました。

[編集後記]

普段の大学生活では高齢者の方々と触れ合う機会がほとんどないので、一年間高齢者の健康について考え、実際に触れ合う機会を持てたことは非常に貴重な経験になりました。また、ラジオを通じて自分たちの活動を発信する際には、ラジオ収録という普段味わうことのできない緊張感の中で、自分の言葉で伝えることの難しさを実感しました。1年間を通じて、高齢者の健康について音楽の側面から考えることができ、高齢者を身近に感じることができました。

[プロジェクトメンバー]

宮井 萌々（文2）　堀江 香那（文2）　植嶋 芹奈（文3）　小野 薫子（文4）　村中 涼太（社会2）　手束 文子（社会2）
岩崎 晴也（法3）　久保 恵二郎（法3）　犬飼 理香子（法3）　神田 優伊（法3）　大岩根 未稀（法3）　飯田 眞生（経済2）
荻田 瑞穂（商2）　橋口 知輝（心理3）　小西 瞳（SA）